

## 令和6年度（2024年度）卒業証書・学位記・修了証書授与式 学長式辞

長かった冬が終わり、風や光が春の訪れを告げています。この春のよき日に、ご卒業なさいます学生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

本日もご臨席を賜りましたご来賓の皆様、それぞれにご多用の中お時間をお割きいただき、ご一緒に学生たちの門出をお祝いして下さいますこと、衷心より厚く御礼申し上げます。

ご家族の皆様、今日までお子様の成長をひたすら願ってこられたことと存じます。そのお子様が見事に巣立ちの時を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。おめでとうございます。

卒業生の皆さんも、この人生の節目の時を迎えて、幼い頃から今日までご自分を応援してくれたご家族や、困った時に助けてくれた先生や友人など、お世話になった方々のお顔や学生生活の様々な場面が目に浮かんでいるのではないのでしょうか。

今日という日を迎えることができたのは、「これ以上は無理」「もうやめよう」と諦めかけた時にも、気持ちを切り替えて頑張り続けた皆さんご自身の努力の結果です。しかし、それだけではなく多くの方々の善意によって学業生活が支えられてきたからこそ、迎えることができたということを忘れないで頂きたいと思います。

また、本日もご卒業ご修了の皆さんの中には、母国を離れて学ばれた留学生の方、また、働きながら学業生活を送られた方、病と闘いながらの方、一度社会に出られて再び入学された方もおられます。皆さんの努力をされておられるお姿に常々心を打たれておりました。それらの方々を含め、途中で辞めずに、こうして卒業・修了まで頑張られた皆さんに、敬意を表したいと思います。皆さんほんとうに、よく頑張られました。

さて、現代社会では、都心でも地方でも、大学生の不祥事を耳にします。いわゆる大卒成人の中にも、理不尽な行動をとる人々や悪事に加担する人々が世の中にあふれ出ています。私は、彼ら彼女らは、自らの「生き方・在り方」をじっくり考える機会に恵まれなかったのだろうか、全うな生き方を示してくれる人物に出会わなかったのかと残念に思うのです。そうした中で、大学教員として、また学長として自問自答してきたのは、「教育はいかにあるべきか」「大学はいかにあるべきか」という問いです。大学や短期大学での専門的知識や技能の習得はとても重要で、各種資格や免許によって証明された専門性を持った人材は、世の中で求められています。

しかし、専門的知識や技能を活かした特定の職業だけでなく、いかなる職業に就く場合でも、その人が持つ価値観が、その職場での活動内容に大きな影響を及ぼしていることは紛れもない真実です。それゆえ、それぞれの学問分野のエキスパートが、その専門性の高さ、内容の深さを十分に保持しながらも、もう一方で、専門性の狭い枠を越え出て、「人間

とは何か」「人間ならではの、より人間的な生き方とはどのようなものか」といった根本的な問題を問いかけ、学生たちに自らの問題として考えてもらうことを通してそれぞれが確固たる世界観や人生観を自ら紡ぎ築き上げていくことが必須であると考え、それが大学の一つの使命だと思うようになりました。

そのために、大学の中で出会う学問やそれを導く専門家としての大学教員たちとの「人格的交わり」を通して、また、同じ世代との切磋琢磨し合う「対話的交流」を通して、さらに実習や演習、フィールドワークやインターンシップ、サークルなどで出会った大学内外の異世代の人たちとの「人間的交わり」を通して、それらを身につけることができるよう教育環境を整えることに心を割いてきました。名前も覚えられないような大きな組織ではなく、「一人ひとりの人格、存在そのもの」を大切にすることができる Student First をモットーにした大学でありたいと願ってきました。

実は、これこそが、本学で引き継がれてきた人間教育そのものだと思います。山陽学園の基礎を築かれた「愛と奉仕」の実践者である上代淑先生も、若き日に内外多くの秀でた人々との人格的交わりを通してご自身の生き方・在り方をただしてこられました。そして、常々若い人たちに「人は何のために生きるのでしょうか」と問いかけ、「人の幸福のために生きましょう」と訴えかけておられました。

本日ここにめでたく卒業を迎えた学生の皆さんが、それぞれに、自らの存在に真摯に向かい合い、「何のために」という意味を追求し、「人間とは何か」「人間ならではの、より人間的な生き方とは何か」と自らに問いかけ、「人生の羅針盤」となる価値観を形成されたと信じてやみません。

本学からは、文化の違いをこえて、共に助け合いながら生きてゆくことができる人、自分以外の他者のことを常に考えて行動できる人、まさに「愛と奉仕」に生きるといった価値を知った皆さんが、巣立っていかれるのだと嬉しく誇らしく思っています。

皆さんがこれから生きてゆく社会は、様々な課題を持つと考えられます。たとえば、これまで経験したことのない急激な人口減少。また、AI人工知能の活用による社会の大きな変化。地球環境の激変による日本のみならず世界各地での気候変動。世界各国の政策がもたらす、私たちの生活への影響は計り知れません。いったいこれから先、20年後30年後は、どのような日本に世界になって居るのかと暗い気持ちになることがあります。それでも、私は若い皆さんが、未来を切り拓いてくださることを信じています。

『気がつけば終着駅』これは、100歳を迎えられた作家佐藤愛子さんの五年前のエッセイ集です。私は、その書名に共感を覚えたのですが、人生はあっという間のように思います。どうか、それぞれに与えられた持ち時間を大切に、ご自分の人生をこころ豊かに歩んでください。

ご存じのように、学位授与式のことをアメリカではコメンズメントといますが、それは、「始まり」を意味する言葉でもあります。学業生活を終えて、いよいよ社会人として旅立たれ、「新しい生活の始まり」を迎えられることをあらためてお祝申し上げます。さあ、船出です。それぞれに本学の教育理念「愛と奉仕」の基に学ばれた専門的知識や技能をも活かして、人のため、地域のため、社会のために活躍してください。未来に向かって、力一杯に漕ぎ出してください。

最後に、ご家族の皆様、ご来賓の皆様に、これまで賜りました本学へのご支援ご協力に、厚く御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

卒業生の皆様ならびに会場におられるすべての皆様、そして本日ここに集うことができなかった皆様方のご健康とご活躍、そして、世界の平和をお祈りし、式辞とさせていただきます。

令和7年（2025）年3月15日

山陽学園大学・山陽学園短期大学 学長 齊藤育子